

発行者: 神奈川大学三浦半島宮陵会 企画・広報委員会

2019年3月10日発行

事務局: 横須賀市浦賀丘2-8-19 Tel: 046-843-0600

平成31年 新年賀詞交換会開催

新年会には50人が参加

平成31年神奈川大学三浦半島宮陵会の新年会が1月7日、須賀中央駅前のセントラルホテルで開催され、会員ら約50人が参加した。

例年のように新年会は二部制に分かれ、嶋田順子幹事（昭和47年短商卒、横須賀）の司会で始まった、一部では神奈川大学人間科学部教授の杉山崇氏の講演「人生100年時代の仕事とキャリアの脳心理学」が行われた。

この講演では「幸せってなに、人生100年時代をどう生きるか、仕事とはなに」など、日本の高齢者人口増加に伴い社会的な健康を維持することの大切さを、分かりやすく説明した。（要旨は別掲）

二部の懇親会は、ユーモアたっぷりの司会ぶりで評判の堀越昌樹幹事（昭和62年法律卒、横須賀）の司会で始まった。鈴木和夫会長（昭和46年法律卒、横須賀）の主催者あいさつに続き、この日の参加者で最高齢の川瀬元夫氏（昭和31年経済卒、鎌倉）による乾杯の音頭は、並みいる後輩全員に元気を与えてくれた。

本会会員の横須賀市議・松岡和行氏（昭和54年経済卒、横須賀）や神奈川大学職員で校友課の浅尾英氏（平成15年法律卒、陸上競技部コーチ）のあいさつ、今回初めて参加した岩本善則氏（平成3年経済卒、逗子）と鈴木龍哉氏（平成4年法律卒、横須賀）の紹介、アトラクションとして本学吹奏楽部OB会長でもある田原清彦幹事（昭和49年貿易卒、逗子）とOBの佐藤美佐男氏（昭和49年貿易卒、横浜）による演奏などもあり、大いに盛り上がった。

中締めのあいさつに立った元横須賀市議会副議長の嶋田晃副会長（昭和47年経済卒、横須賀）は、杉山崇教授のこの日の講演で学んだ100年時代に生きる秘訣を、①仲間とのコミュニケーションを大切にする、②自分自身の物語をつくることと、早速紹介し、会場を沸かせた。校歌と応援歌の斉唱で新年会は無事に終了した。（原柳作）



↑ 受付の堀越幹事・武井副会長



↑ 講演会会場

↑ 司会の嶋田幹事



新年会参加者〔セントラルホテルにて〕

【記念講演会】

人生100年時代の仕事とキャリアの脳心理学
神奈川大学人間科学部教授 杉山 崇



【要旨】

1. 幸せって心理学的になに
米国や欧州では活動の基盤
は「脳」と考えられている。

長い進化の歴史の中で、脳は
古いものの上に新しいものが
重なるという珍しい進化を遂
げてきた。その進化の歴史を
みると、①ワニの脳（なまけ
もの。先のことを考えない。

快楽を好む）、②ウマの脳
（好き嫌いか激しい。いい予
感、悪い予感を獲得）、③サ
ルの脳（群れが大きくなると、
階層構造を作る。自分の立場

を獲得）が重なり、その上に人の脳が重なった。わたしたちの脳にはワニがいて、サルがいて、ウマがいるのです。これらの凄い機能を持ち、進化して人の脳となった。

馬の脳と猿の脳には、矛盾が生まれた。仲良くしたい、でも有利になりたいという矛盾。これは人間の持つ矛盾そのものだ。人間の脳は、身の回りの出来事を物語にすることで、たくさんの情報を集めることができた。人間の脳と心の仕組みを考えると、ワニ、ウマ、サル、そして人の全ての脳が喜ぶことをすれば、幸せになれるということになります。これが心理学的に考えられる幸せというものです。

2. 100年時代をどう生きるか

仕事を通して人生100年を考えてみたい。

65歳以上の高齢者人口の推移をみると、1940年代の85歳以上はゼロに近い。しかし2001年と2018年を比べると、その数は倍増です。厚労省の2100年までの総人口予測表では、1960年代までは100歳以上の人はほとんどいなかったが、2029年から39年では総人口の10～20%を推計しています。本気で100年時代を考えなくてはならなくなりました。

なぜこれほど高齢者が増えるか。その原因は、①公衆衛生の発達、②栄養状態がよくなった、③医学の発達だ。これらが寿命阻害要因を少なくしました。

人間は、生物であり、心を持つ存在であり、社会的な存在でもあります。この三つの要素はつながっています。人はコミュニケーションを通してお互いに影響しながら生きています。従って、100年時代に充実して生きるには、身体健康だけでなく、心が社会的健康を維持するために大切です。

3. 仕事とはなにか

昔、仕事はお金を稼ぐだけのものでよかったかも知れないが、今は違う。創業社長だった義父は「仕事は儲けようとせず、役に立とうと思わないと潰れる」と言っていた。仕事を通してよることもらう。仕事は基本的にだれかを幸せにするから仕事になっている。

例えば、私たちは電気を当たり前のように使っているが、メンテをする人たちがいるから私たちの幸せは支え



られている。仕事の中で自尊心、自分が役に立っている、自分に価値があるという感覚を持てるかが大切です。

ある月刊誌では、61歳の元校長先生が、定年後の再就職先をそれまでの延長線ではなくIT系の職場に得て、これまでとは違った心で、新鮮な楽しい仕事ぶりを紹介していた。

この例では、仕事はお金を得るためだけでなく、人と人がつながり、出会い、学べる。学びは、こころの痛みを緩和します。仕事は信用を生み、信用は自己の価値を高める。人生を豊かにしてくれるのが仕事です。

厚労省の考えの中には、人生100年時代は高齢者も働いて下さいという本音もあるかもしれません。が、仕事を通して幸せになってくださいと言っています。

4. 働き甲斐の方程式

次に働き甲斐の方程式を紹介します。次の3つの要素の掛け算が、仕事の動機付け（やる気）となります。①欲求、②誘引、③達成期待度（自分ではできる）。

人の脳は物語（やる気）を求めます。何をやりたいか。その物語を見つけると脳は喜びます。人生は幸せなことばかりではありません。だから、仕事のなかに自分の方程式を見つけることが大切です。仕事は、①お金をもたらず、②目標をもたらず、③仲間をもたらず、④学びをもたらず、⑤信用をもたらず、⑥物語をもたらず。

つまり、全ての脳は、仕事を通じて心理的幸せをもたらずものです。（原柳作）

※杉山崇教授略歴：1970年下関生まれ。学習院大学大学院人文科学研究科心理学専攻博士課程満期退学。長野大学専任講師、法政大学大学院兼任講師などを経て、08年神奈川大学人間科学部准教授、13年同大教授、15年同大心理相談センター所長、17年同大人間科学研究科委員長。16年神大芸術褒章受章。NHKニュースウオッチ11などTV出演実績。

【懇親会】

▽ 挨拶する鈴木和夫会長⑤ 乾杯挨拶をする川瀬元夫氏⑥

二浦半島宮陵会新 二浦半島宮陵会新



▽演奏する田原清彦幹事と佐藤美佐男氏



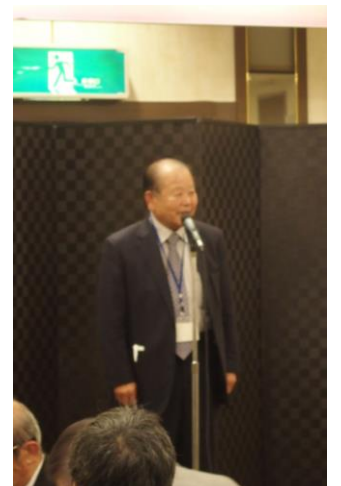
▽入子二浦干島百段云 初竹只!



◀ 鈴木会長と初
参加のメンバー



▽ 挨拶する嶋田晃副会長⑤ 村田龍也副会長⑥



三浦半島宮陵会同好会通信

最近の活動を紹介します

- ゴルフ会世話人:中川六郎(昭和44年経済卒)
メールアドレス: nakaroku@jcom.home.ne.jp



連絡先: 090-9003-2499
第37回三浦半島宮陵会オープン
コンペ開催 紅一点、徳間百合子
さんが初優勝!

第37回三浦半島宮陵会オープン

コンペが、11月21日(水)鹿野山カントリー倶楽部、
天神・白鳥コースで16名が参加して開催された。

春のような穏やかな天気の下、レディスティーから小
百合スマイルで正確なショットを繰り出し、スコア72
で徳間小百合さんが初優勝となった。

準優勝は前回優勝の松井一郎氏、3位はハンディキャ
ップ6の塚田キャプテンであった。ニアピンは、徳間さ
んが天神5番、白馬8番で、奥野氏が白馬3番で受賞、
天神7番は該当者なしでした。

優勝した徳間さんは、「豪快なショットを放つ、元官
房副長官の齋藤勁氏、38年機械卒の飛ばし屋紳士の阿
部好伸氏、久しぶりのニッカーポッカー姿の世話人の中
川六郎氏と楽しく回れたのが良かった」と感想を述べた。

次回、第38回は、3月22日(金)に葉山国際カンツ
リー倶楽部で開催(幹事は松井氏と佐藤氏)しますが、過
去最低の12名の参加となります。私の努力不足で、ゴ
ルフ会の求心力が失われ来ているようにも思います。
今後はいままでの年3回を1回にして、集中参加してい
ただけるように提案するつもりです。〔中川一郎〕



△ 参加者全員で



△ 齋藤・徳間・中川・阿部の各氏

- テニス会世話人:小池邦夫(昭和38年機械卒)
メールアドレス: kichiemu@mbj.nifty.com
連絡先: 090-8811-5079

葉山の活動コートが、現在諸事情により使用不能にな
り、知り合いのコーチが経営する、6月完成予定のコ
ートを待っている状態です。

現在はテニス会の一部メンバーにより、横須賀市武の
市営コートで活動を続けております。2月には田中弘氏
ご夫妻、塩塚氏、私とで雪の中をプレーしました。

また、夏には恒例の合宿を計画しておりますので、多
数のご参加を、お待ちしております。〔砂川正夫〕



- 歩こう会世話人:若林秀明(昭和39年経済卒)
メールアドレス: w-hideaki@mvd.biglobe.ne.jp
連絡先: 090-3220-1479
只今休会中です。ご要望をお知らせ下さい。

- つり会世話人:塩塚定雄(昭和48年貿易卒)
メールアドレス: shiozuka@aria.ocn.ne.jp
連絡先: 090-5581-1043
神大教職員釣り部とコラボで企画を思案中です。企画が
出来上がりましたら案内しますので、是非ご参加ください。

吹奏楽とグローバルビジネス

田原 清彦 (昭和 49 年貿易卒)

私にとって吹奏楽とグローバルビジネスは、人生そのものといっても過言ではありません。

「英語を駆使して海外で活躍したい」、「クラリネットを極めたい」は、中学生のころから描いていた二つの夢でした。楽器演奏と英語の勉強は両方とも12歳からはじまり、県立秋田高校を1970(昭和45)年3月に卒業したのち、同年4月神奈川大学貿易学科に入学しました。

在学中は学生運動が吹き荒れた時期でしたが、石田貞夫先生、小山伝三先生から貿易実務・商業英語を学ぶことができたことが、その後の人生で大きな財産になりました。

在学中「これからは航空貨物が伸長するのでは」と判断して、卒業後は国際航空貨物輸送を扱う(株)近鉄エクスプレス(KWE)に入社。近畿日本ツーリストの貨物部門が独立した会社で、当時は社員数も200人ほどでいわば創成期でした。

航空貨物の取り扱いにかかわり、17年にもわたる海外駐在(アメリカ、フランス)も経験し、会社人としては最終的にグループ経営戦略本部役員として経営にも参画しました。今では世界各国で総計18,000人を抱える航空・海上貨物輸送、ロジスティクス分野における大手国際フォワーダーに成長しました。

神奈川大学で学んだ国際貿易・商業英語は、社内外そ



に立ったのは言うまでもありません。一方、中学・高校で没頭していた吹奏楽については、プロ演奏家への道も考えた時があったのですが、国際的な仕事に従事したいという考えで貿易学科を選んだ経緯もあり、実家の経済面からも音楽家への道は少々ぼんてしまいました。

ところが神奈川大学吹奏楽部の演奏を聴いたとたん、音楽への情熱が再燃し入学後すぐ入部。1~3年生時はクラリネット首席奏者、そして4年生時には学生指揮者として全日本吹奏楽コンクールに出場しました。その後吹奏楽部は金賞30回(大学部門最多)を受賞して、2月9日には大学側の主催で祝賀会を開催していただけるなど、吹奏楽部OB会長として誇りと責任を感じています。立派に成長した神奈川大学吹奏楽部を、これからも支えて音楽の面でも神奈川大学の名声を高め、世界は呼ぶと歌い上げる校歌のごとく、グローバルに活躍できる学生輩出にもお役に立てるよう今後も努力を続けたいと思っています。

三浦半島宮陵会の諸先輩方のご助言を賜りながら、微力ではありますが母校の発展のために頑張っけてゆき存でございますのでよろしくお願い申し上げます。

ミャンマー・チャイルド支援地を訪問して
磯崎 太一 (昭和 46 年英文卒)



支援した子供と描いてくれた絵

今年1月、ミャンマーの支援地視察ツアーに参加しました。なぜ現地訪問したか。その理由から述べます。

7年ほど前、チャイルドを通じその地域を支援し手紙などで交流できる独自プログラムを実行する国際NGO法人・World Visionを知りました。

当時8歳の孫と同年齢

のミャンマーの女の子のチャイルドスポンサーとなり、自分の孫のように成長を見守ってきました。

World Vision Japanを通して毎年成長報告が届き、誕生日やクリスマスなどの機会に手紙でそのチャイルドの成長する姿を実感できたことが、この支援を続けてこられたのだと思います。

今回、ヤンゴンから四輪駆動車で5時間も走り、さらに川上に向かい、本当に村があるのかと思われるような場所で、子供たちや村人たちに笑顔で迎えられました。チャイルド本人や家族に会うこともでき、感動的で忘れられない思い出となりました。

コミュニティーの人々はとても優しく、この日のために準備してきた子供たちの踊りを見せてもらい、多くの

子供たちと握手をするなどして一緒に過ごし、素晴らしい時間を過ごせました。

World Vision ミャンマーの献身的な働きぶりや支援、地域開発事業の現状、子どもたちの生活の場、支援活動を見ることができました。多くの子どもたちの笑顔にも出会うことができ、支援を続けてきて本当に良かったと思います。

ご一緒した私のようなスポンサーや日本で素晴らしい支援活動をする人たちとも出会い、貴重な体験となりました。チャイルド支援に関心のある方は、ぜひ World Vision のホームページをご覧ください。

〔発展途上国の子どもたちの支援活動を続ける友人の磯崎さん（東京都）に寄稿してもらいました。原柳作〕



迎えてくれた子どもたち

本会HP(ホームページ)の紹介

アドレス <http://miurahanto.blog.shinobi.jp>



神奈川大学三浦半島宮陵会のHPのアドレスは『神奈川大学三浦半島宮陵会』でも検索できます。

本会の開催行事などは、写真とともにホームページにアップするようにしています。

写真を印刷するには、まず本会HPのMENUの、「ご報告」から入っていただき、見たい項目をクリックすると見ることができます。掲載されている写真をクリックして、ご自分のパソコンのピクチャフォルダに保存したものを、写真用紙に印刷するようにしてください。

MENUには、投稿していただいた話題などを掲載する「我らの仲間」などもあります。また、ご連絡等を頂く「ご連絡：メール」もあります。

今後とも魅力のあるHPとしていきますので、ご覧になってご活用ください。投稿等もお願いします。（広報担当：塩塚定雄）

～編集後記～

会報27号をお届けいたします。本会では2大行事として、夏の集い(総会)と賀詞交歓会(新年会)を毎年開催しています。今号では、過日開催されました、平成31年賀詞交歓会の模様を報告します。また、前月号に引き続き、会員からは田原氏に、原氏の同級生にも書いて頂きました。お忙しい中、寄稿していただきまして有難うございました。

☆ ☆ ☆ ☆

新年会では、杉山教授に「人生100年時代の仕事とキャリアの脳心理学」と題する記念講演をして頂きましたが、先日、内館牧子著「終わった人」(講談社)を読みました。昨年映画化もされたので、ご覧になった方もあると思います。

この物語の主人公は、まだ頭も身体も元気だが定年で今までの職場を追われることとなった、63歳の元銀行マンの男。大手銀行ではNo.2まで昇り詰めただけに、定年後の自分の“居場所”を探しあぐねた末、慣れ親しんだ職場に再び身を投じた、その顛末が綴られている小説です。人生100年時代と言われ、寿命が延びたが、第二の人生と言われる定年後をどう生きるか？ 小説であり、モデルがいるわけではないようですが、どこにでもありそうな話となっている。

人生いろいろ、私も65歳で長年勤めた神大を退職し、2年間リフレッシュを兼ねて畑仕事をした後、キャリアを生かして、週4で就職支援の仕事をしながら、同窓会などの役員を引き受けるなどしている。

先日(2/10)には、OB会事務局長を務める神大バスケットボール部の「18年度卒業生を送る会」に参加した。現在、男子バスケットボール部は関東1部リーグに所属し、過去最高で最強のチームとなっている。嬉しいのは、目標としてきた、「一人でも多くのOBやファンの方々が、応援に来たくなる様なチーム」、「全国の高校生が大学でバスケットやるなら神大が一番と、言ってもらえるようなチーム」などが達成されていることです。「どんな友情も、最初は知らない者同士の出会いである。自分が引っ込み思案では、友情も深まらない。勇気をもって、挨拶する、会う、語る、縁を結ぶ。この日常の誠実な振る舞いのなかにこそ、わが生命の宇宙を、伸びやかに開発してゆく。」とは私が尊敬する恩師の言葉です。私も幸せなことに“居場所”を見つけました。

この会にも、多くの方が参加されることを願いたい。貴方の“居場所”もありますよ。(塩塚定雄)

2019.2.10 発行